

シネマズライフ

2017年6月16日発行 第126号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

たかぎ りおん
貴樹 諒音

【最近のこれはお見事!】

『怪物はささやく』

怪物の声って、ささやいても大きいのかな?

【最近のこれはまずいぞ!】

『追憶』

作品としてとてもよい作品。しかし、『追憶』という題名は今まで何度も使われている題名で、この作品の題名としてはとても残念だと思った。子供の時に経験した『悪夢と優しさ』現実の『悲しさ』はこの題名では生かし切れていないと思った。

映画の風景 日本の風景

※ 比叡山延暦寺 ※



中世・ヨーロッパでは多くの教令が現れ、それぞれ戒律を守っていた、それが間違っていたとしても、この映画の『笑う事』を禁じるという戒律もまた守らねばならなかったのだらう。

比叡山延暦寺は修行で有名だが、特に厳しい『千日回峰行』は人に強要する事ではなく自由に課す修行だ。現在、比叡山延暦寺では一般人でも修行体験ができるそうだし、しかし、その修行では『笑う事』は許して貰えない事だらう。

物さがすうち、アドンは一人の女と運送する...

その夜、謎を解く為再び写字室を訪れると、先ほどベレンガーが隠した本を発見。ところが、詳しく調べようとするや、本が入れ、本と犯人が共に消えていた。二人は本と邪魔をした人物をさがすうち、アドンは一人の女と運送する...

『薔薇の名前』という映画があった。こんな映画だ。

一三二七年、中世・北イタリア。バスカヴィルのウィリアムは弟子のメルクのアドンを連れて、任務の為ある僧院を訪れた。ところが、ついた早々数日前に僧院の若い修道士が怪死したという。修道院長も困惑しており、ウィリアムに解決を依頼。

しかし、まもなくギリシア語の翻訳をしている修道士が水がめに頭から突っ込まれて殺され僧院は騒然となる。

僧院を探るうち、殺された二人の職場、図書館のある塔の写字室を訪れる。

二人の机を探っていると、副司書のベレンガーがネズミを怖がり奇声を発すると部屋中の修道士達が笑う、すると文書館長で盲目のブルゴスのホルヘが現れ、『笑う事』を禁じた令の戒律を説き、それに反論するウィリアムを吐責する。

『薔薇の名前』1986年 フランス イタリア 西ドイツ 監督：ジャン・ジャック・アノー 原作：ウンベルト・エーコ 出演：ショーン・コネリー F・マーレイ・エイブラハム クリスチャン・スレーター

原作は難解な小説という事で有名だそうで、原作ファンも異論も多いらしい。個人的には主役の一人・クリスチャン・スレーターの美少年ぶりが魅力の一つ。



↑ 広い宇宙

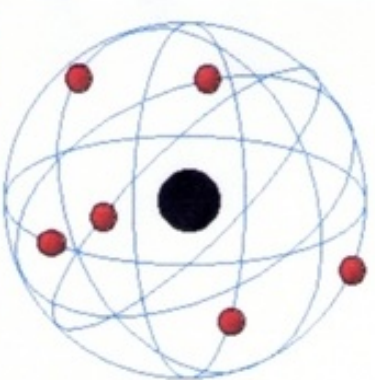


わかりやすく緊密配置で描かれた太陽系。→

コラム
マクロとミクロと
宇宙の神秘

『ミクロ』限りなく小さいもの。前々から思っていたのだが、広い宇宙に漂う多くの銀河系(太陽系などもグルグル回っている訳で、原子の構造とよく似ていると思う。結局、『宇宙』自体も回っているそうだし...

宇宙の神秘は今だ解決せず...か。



一長岡半太郎及びラザフォードの原子モデル

↑ Wikipediaを参考にさせて頂きました。m(_ _)m

